

Title	翻刻：「石橋湛山日記」1936年1月～3月
Sub Title	Transcription：The diary of Tanzan Ishibashi from January to March 1936
Author	牧野, 邦昭(Makino, Kuniaki) 上田, 美和(Ueda, Miwa) 望月, 詩史(Mochizuki, Shifumi)
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	2025
Jtitle	三田学会雑誌 (Mita journal of economics). Vol.118, No.1 (2025. 6) ,p.103- 121
JaLC DOI	10.14991/001.20250601-0103
Abstract	
Notes	資料
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-20250601-0103

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

資料

翻刻：「石橋湛山日記」1936 年 1 月～3 月

牧野邦昭* 上田美和** 望月詩史***

解題

以下で紹介するのは、戦前は『東洋経済新報』主幹を務め金解禁論争などに関わった経済ジャーナリストであり、また戦後は政治家に転じて大蔵大臣や通産大臣として日本経済の復興や産業政策に関わり、首相も務めた石橋湛山（1884–1973）の 1936 年 1 月から 3 月までの日記の翻刻である。本稿は、共著者 3 名が 2024 年から進めている翻刻プロジェクトの成果の一端である⁽¹⁾。

石橋湛山の日記はこれまで 1945～57 年 1 月の日記が石橋湛一・伊藤隆編『石橋湛山日

記 昭和二〇～三十一年』（上下巻、みすず書房、2001 年）として刊行されており、貴重な一次史料として、多くの人々に利用され、各種研究に寄与してきた。しかしその他の時期の日記については利用できない状態が続いていたが、2023 年 12 月、没後 50 年を記念し、国立国会図書館憲政資料室に未公開の日記を含む新資料が、石橋の御令孫の石橋省三氏により寄贈され、2024 年 3 月から同資料室にて公開された⁽²⁾。

今回寄贈された日記のうち、戦前のものは 1916 年、1936 年、1939 年、1940 年、1941 年の日記である。特に 1936 年から 41 年の日記は、戦時経済体制へ移行していく中で、昭和初

* 慶應義塾大学経済学部

** 共立女子大学国際学部

***同志社大学法学部

(1) 国立国会図書館憲政資料室「石橋湛山文書（その一）」資料番号 875。

(2) 共著者 3 名の問題意識については、上田・牧野・望月「石橋湛山研究——過去、現在、未来——」『自由思想』167 号、2023 年 2 月。

期の金解禁論争でその名を高めた『東洋経済新報』の部数が大きく増加して社会的な影響力を持つようになり、また石橋湛山自身も有力な知識人として様々な方面で活躍していきようになっていった時期のものである。この時期に石橋がどのような活動をしており、どのようなことを考えていたのかを明らかにすることは、経済史および経済思想史の観点からも重要である。特に今回翻刻した時期においては高橋是清蔵相らが殺害された二・二六事件が起きており、石橋が同事件についての情報にどのように接し、受け止めていたのかを知ることができる。今後も引き続き日記の翻刻を進め、公開していくことを予定している。

凡 例

- ①人名以外の旧字は常用漢字で表記した。
- ②仮名遣いは原史料通りに表記した。
- ③石橋湛山による文章の順序の入れ替えは整序して表記した。
- ④石橋が引いたと思われる下線や波線は表記した。
- ⑤「,」「。」「」(1文字分空白)は区別して表記した。
- ⑥石橋による見え消しの痕跡は翻刻に残した。
- ⑦改行や空白の行も原史料での表記を尊重した。
- ⑧明らかな表記の誤りには「ママ」を付けた。
- ⑨推測箇所には「カ」をつけた。

⑩判読不可能な文字は■で表記した。

⑪日記中に登場する東洋経済新報社社員の入社年の判別には『東洋経済新報社百年史』(東洋経済新報社、1996年)所収の「入社年次社員一覧」を用いた。

⑫日記原文は横書きである。

⑬翻刻者による注記は、〔 〕で表記した。

⑭文の折り返しについては、原文の通りではなく、本誌の書式に合わせた箇所がある。

⑮人名の姓は新字で表記する。ただし、「辺」「邊」「邊」や「斉」「齋」「齋」「齊」などの区別は原文の表記とする。名の表記は旧字も含め、原文の表記とする。

翻 刻

一九三六年一月一日(水)

昨年12月20日以来伊豆峯温泉玉峯館に滞在。

⁽⁴⁾妻昨夜当地に来。

午前中色紙二冊習画。

午後2時妻と共に散歩。谷津にて勝間田氏⁽⁵⁾に邂逅す。谷津桜園を見物。

口中疼痛⁽⁶⁾軽し。

一月二日(木)

午後色紙2枚習画。雨少しく降る。口中疼痛軽し。

午後 Eastern Industrialization⁽⁷⁾を読む。

夕刻勝間田氏来宿、夕食を共にす。

-
- (3) 「石橋湛山文書」資料目録は国会図書館憲政資料室 HP に掲載されている(2025年1月9日アクセス)。
https://ndlsearch.ndl.go.jp/file/rnavi/kensei/ishibashitannzann/index_ishibashitannzann.pdf
2023年12月追加の新資料は「石橋湛山文書(その一)」の資料番号874~914に該当する。新資料の来歴と意義について、詳しくは上田美和「国立国会図書館憲政資料室「石橋湛山文書」新資料について」『自由思想』175号、2025年2月。
- (4) 石橋湛山の妻、うめ(梅子)(1888-1971)。
- (5) 勝間田良太郎(御殿場、二葉建設創業者)か。
- (6) 石橋は1934年1月頃から三叉神経痛に苦しみ、治療を受けていた(『石橋湛山全集』第15巻、東洋経済新報社、1972年、p.372。以下、『全集』⑮と略記)。

一月三日（金）

午前 11 時より宿主人稲葉氏案内にて同氏経営の見高分譲地見物、妻及勝間田氏同伴、帰途今井浜別荘地を山越にて見物。

Japan's Foreign Trade, Past & Future 校訂。

一月四日（土）

終日在宿。The Oriental Economist⁽⁸⁾ を読む。

Mr. Ronald Mr. Findlay's article is very⁽⁹⁾ interesting.

Mr. Katsumada came.

一月五日（日）

午前 11 時峯発バスにて天城峠を越え帰宅。⁽¹⁰⁾

妻、勝間田氏同行。峯にて志立氏⁽¹¹⁾に面会。午後 5:30 帰着。

一月六日（月）

午後零時半出社。倶楽部新年会⁽¹²⁾に出席。

午後 5 時社新年会、6 時 30 終る。

午後 6 時半、内山舜氏⁽¹³⁾来社、予の病気につき心配。

疼痛軽微なれども依然継続す。

一月七日（火）

終日在宅。書面整理等。

午後 3 時より大日本印刷会社の招待にて歌舞伎座見物、三浦氏の共、暫を初めて見る、幸四郎出演。夜十二時帰宅。

[8 行空き]

発書 高知市汪ノ日町石倉小三郎氏 カマボコ
札状

(7) G. E. Hubbard, *Eastern Industrialization and Its Effect on the West*, London: Oxford University Press, 1935 (『全集』⑮, p.375)。

(8) 英文東洋経済新報（以下、OE 誌と略記）。OE 誌は、1934 年 5 月に東洋経済新報社より創刊された。石橋が OE 誌発刊を計画し始めた正確な時期を特定できないが、『東洋経済新報』1933 年 9 月 23 日号に“An Important Announcement English Edition of the Oriental Economist”（「重要なお知らせ——『東洋経済新報』英文版の発刊」）と諸外国の日本批判（主に為替ダンピング）に対する反論を展開した「日本の経済的立場——為替ダンピング論の誤り」の英文が掲載されている。掲載時期を考えると、満洲事変、金輸出再禁止、満洲国建国、国際連盟からの脱退という一連の政治、経済上の出来事に起因して諸外国による日本批判が強まる状況下で、石橋は OE 誌の発刊計画を徐々に具体化していったと考えられる。

(9) Ronald and Findlay, “Japan's Problem: An England's View”, *The Oriental Economist*, Jan. 1936. 望月詩史編『The Oriental Economist 総目次』, 2017 年。

(10) この時期、石橋は鎌倉在住。

(11) 志立鉄次郎（1867–1946）。出雲出身の銀行家。日本興業銀行総裁などを歴任した。妻のタキは福澤諭吉の四女。

(12) 経済倶楽部と思われる。詳細は上田美和『石橋湛山論 言論と行動』（吉川弘文館、2012 年）第 3・4 章参照。

(13) 内山舜（?–1945）。早稲田大学英文科卒。この時期は朝日新聞に勤務中（1936 年 1 月 9 日の条）。長男（浩）が、東洋経済新報社に 1937 年入社している（尾崎宏次編『秋田雨雀日記 第 3 卷（1935 年–1944 年）』未来社、1966 年、p.308）。『石橋湛山日記』（上巻、みすず書房）1945 年 7 月 24 日の条には内田浩から、父逝去の来信が石橋に届いた旨の記載がある。

一月八日（水）

正午前出社。社内営業室等改造につき現場調査。

村山医院⁽¹⁴⁾にて健康診断異状無し、血液検査を受く。

午後編輯会に出席、其他二三編輯事務報告を受く。

一月九日（木）

午前 11.30 出社。Oriental Economist の編輯方針につき斎藤大石両氏と打合せ。

午後 1 時仏教編輯部越智道順氏⁽¹⁵⁾来訪、亡父⁽¹⁶⁾に就き談話を求めらる。

午後 2 時朝日新聞内山舜氏の紹介にて会社診療部にて平井博士（慶應内科医長）の診察を受く、三叉神経痛に就ては別段の薬もなし。

本日安田健治郎来泊。

Eastern Industrialization and Its Effect in the West p. 178 まで読了。

一月十日（金）

午前中年賀状を見る。安田午前中滞在。午後 前 11 時 53 にて帰宅。

終日中外商業論文考察せしも成らず。

夜風邪気味にて早く就床。

Foreign Affairs Apr. 1935 中 Admiral William V. Pratt, Pending Naval Questions を読む。又全誌 Norman H. Davis, the Disarmament Problem 再読。

一月十一日（土）

在宅。中外商業の為め原稿執筆。“増税不可避の覚悟”⁽¹⁷⁾午後 4 時終り、5 時 12 分の速達にて発送、自ら郵便局に赴き且つ八幡宮参拝散歩。

一月十二日（日）

朝おそく起床。終日書面等認め。疼痛稍々多し。

〔10 行空き〕

来客、金子襄〔カ〕、永峰正樹⁽¹⁸⁾ 何れも午後。野沢義信夜、年賀。

〔2 行空き〕

石倉小三郎氏⁽¹⁹⁾に蒲鉾礼状。

越智道順氏に亡父の件につき書状、書籍日布上人⁽²⁰⁾を送る。

一月十三日（月）

午前 7 時前起床。9 時 53 分電車にて出社。雑用。財政社説修正⁽²¹⁾（渡⁽²²⁾（綿）野執筆⁽²³⁾）橘会新年会開催通知。

(14) 東洋経済新報社の嘱託医を務めた村山内科医院（日本橋）の村山富治か。村山は 1932 年から 65 年まで同社嘱託医を務め、総理在任中の石橋が発病した際に主治医として診断した（『東洋経済新報社百年史』 p. 408. 以下、『百年史』と略記）。

(15) 越智道順（1883-?）。元大原社会問題研究所員、仏教法政経済研究所員。

(16) 「亡父」とは石橋の父、杉田湛誓（日布、1855-1930）。

(17) 「本年財界の緊急事——増税不可避の覚悟」『中外商業新報』1936 年 1 月 13 日号「中外週評」（『全集』⑮，p. 123）。

(18) 永峰正樹はこの後、東洋経済新報社に入社する。1936 年 3 月 9 日の条参照。

(19) 石倉小三郎（1881-1965）。音楽家、ドイツ文学者。当時、高知高等学校校長。

(20) 高田恵忍編『日布上人』（身延山久遠寺、1931 年）。

午後 5.37 電車にて帰宅。
血液検査の結果異常なしとの報告を村山医院
より受く。
夜読書若干。
夜読書。

一月十四日（火）

今朝 6 時 30 起床。朝食後静座練丹。
午前中手紙等認む。
午後庭に出で池等の掃除を行ふ、夕刻まで。
夜読書、雨宮敬次郎過去六十年事蹟⁽²⁴⁾、9 時す
ぎまで。

色紙一枚描く 午後。

本日より朝習字を再開

〔3 行空き〕

中瀬勝太郎⁽²⁵⁾、大館堯寿⁽²⁶⁾両氏に贈物礼状発。

一月十五日（水）

午前 6.30 起床。練丹若干。吸入、風邪にて鼻
汁及痰多し。
朝食後習字十枚。

今朝出社の予定なりしも取り止め電話にて編
輯指令をす。（軍縮会議座談会開催の件）

The Oriental Economist leading article 起
草⁽²⁷⁾、軍縮問題。

夜中床中にて咳嗽甚だしく発生閉口、プロチ
レニ錠を用ゐ鎮静、朝晩二回吸入

○本日倫敦軍縮会議より日本脱退す。

〔2 行空き〕

阿部嘉蔵氏⁽²⁸⁾より養病の爲め精常園を勧め来る
事今朝にて両回。

返事出す。

一月十六日（木）

午前 7 時起床。朝食後吸入⁽²⁹⁾〔入〕。習字十枚。
静座練丹。之にて午前 11 時 30 に至る。

O.E. 社説 London Conference 失敗の場合に
ある物起草終る⁽³⁰⁾、午後 6 時。

12 時約に依り大石修之亮氏⁽³¹⁾来昼食を共にす、
O.E. 英文執筆につき常任援助者を依頼する
件、外務省よりの依頼に依り Mr. Rey の為
め大石氏が Far Eastern Review の援助金募

(21) 「十一年度予算の概貌」『東洋経済新報』1936 年 1 月 18 日号「社説」（『全集』⑮，p.123）。

(22) 欄外に「綿」と表記あり。東洋経済新報社編輯局の綿野脩三（1930 年入社）のこと。

(23) 甲府中学同窓会。

(24) 雨宮敬次郎『過去六十年事蹟』（1907 年）か。

(25) 中瀬勝太郎は会計学者、明治大学教授。昭和期の東洋経済新報社外部執筆者（『百年史』p.397）。

(26) 大館堯寿（1887-1997）。経済学者。コロンビア大学で博士号を取得し、中央大学、慶應義塾大学等
で講師を務めた後に三井金融研究会調査部長。その後日本大学教授、秋田短期大学学長（人事興信所
編・刊『人事興信録 第 25 版 上』1969 年，p.お 168）。大館は『東洋経済新報』1065 号，1066 号，
1202 号に寄稿している。

(27) “The Abortive London Conference”，O.E.，Vol. III No.2（『全集』⑮，p.123）。

(28) 阿部嘉蔵は東洋経済新報社社員（1928 年入社）。関西支局長を務めた。1934 年 3 月に「東洋経済新
報社社制」実施に伴い、理事に任命された（『百年史』pp.402, 418）。

(29) 欄外に「入？」と表記あり。

(30) 1936 年 1 月 15 日の条参照。

(31) 大石修之亮は英文東洋経済部長を務めた（1934 年入社）（『百年史』p.403）。

集に従事する件、社毎週の編輯会に大石氏ハ出席せずとも宜しき件、いづれも承認、但し Rey の件に就てハ単なる broker なりとの誤解を招かぬ様致すべき旨注意す、午後 4 時全氏辞去。

〔1 行空き〕

○軍縮脱退声明発表せらる。

一月十七日（金）

昨夜咳嗽多し。今朝も咽咳悪し。

6 時 30 起床 ラジオ体操

今夕軍縮問題座談会を催すにつき出社のつもりなりしも風邪良好ならざるに依り、書面にて山田氏に指令し出社を見合す。斎藤氏に英文雑誌原稿郵送。何れも東京にて湛一持出速達。⁽³⁴⁾終日臥床。咳嗽止まず、朝昼夜吸入三回。

一月十八日（土）

風邪臥床。午後 2 時すぎ山田秀雄氏来、編輯事務報告の爲め夕刻朝晩食を共にす。

午前向山医師訪診察を受け服薬開始。

一月十九日（日）

終日臥床。夕刻野沢来、⁽³⁵⁾夕食を共にす。

一月二十日（月）

終日臥床。軍縮問題社説執筆せんとせしも考案成らず。

本夕経済倶楽部にて橘会開催せられしも欠席す。

一月二十一日（火）

衆議院本日解散の形勢。社説執筆の爲め午前 11.23 電車にて出社。

僅かに 100 行余なれども難渋す、午後 7 時頃完稿。

〔10 行空き〕

衆議院本日午後解散、2 月 20 総選挙。

一月二十二日（水）

午前 12 時出社。出勤前理髪。

米国に送る統計及全説明英文を校訂、鈴木氏に両整理を托す。爲めに午後編輯会を失念出席せず。

午後 5 時より倶楽部にて杉野氏東株理事長就任祝賀宴出席、午後 8 時すぎ終了、杉野氏と共に帰宅。

〔1 行空き〕

出社前に村山医院にて風邪診察を受け、薬を貰ふ、直ちに服薬。

一月二十三日（木）

午前 8.48 電車にて出社。米国送統計残部校訂。正午岩堂保氏（英文記者）を招き会食、神原、大石、鈴木三氏同席。⁽³⁷⁾

午後 2.30 和彦⁽³⁸⁾の鼻診療依頼の爲め全人を伴ひ

〔32〕山田秀雄は東洋経済新報社社員（1925 年入社）。

〔33〕斎藤幸治は東洋経済新報社社員（1933 年入社）か。英文東洋経済次長を務めた（『百年史』p. 403）。

〔34〕石橋の長男、湛一（1913–2003）。

〔35〕野沢義朗（1893–1970）は石橋の実弟、1928 年、東洋経済新報社に入社。

〔36〕杉野喜精（1870–1939）。実業家。1935 年 12 月 23 日、東京株式取引所理事長就任。

〔37〕東洋経済新報社社員の神原周平（1919 年入社）。

市政会館内日本文化協会に松谷元三氏訪、和彦ハ全氏に伴はれ専売病院に赴く。予は帰宅。帰宅後 Eastern Industrialization の短評を認む。

昨夜は睡眠不足につき今日は早く臥床。

一月二十四日（金）

午前 7 時起床。乾布摩擦⁽³⁹⁾を行ふ。9.23 電車にて出社。

正午倶楽部午餐会、伊藤正徳氏軍縮問題、意見穏健共鳴する所多し。

午後清沢冽氏に支那問題に就き社説執筆依頼。

午後四時菅野病院代理吉野弁護士永野氏支払の件につき来談。

その他雑用。

夜宅にて Review of the Month 少しく執筆。

〔4 行空き〕

葉山購買組合清水氏より湘南組合⁽⁴⁰⁾に就て苦情を申来る。返事出

一月二十五日（土）

午前 7 時起床 乾布摩擦。9.23 電車にて出社。

Review of the Month 執筆 夜 9 時まで。

正午津田鐘紡社長講演、氏の北支満洲視察談頗る面白し。午後 2 時より婦人経済会⁽⁴¹⁾上田貞次郎氏人口問題講演。

一月二十六日（日）

午前 8 時起床 乾布摩擦。10 時より役場にて市制調査委員会午後 1 時 30 まで。それより妻及ウタ子と共に松崎氏訪。⁽⁴²⁾

午後 4 時帰宅。

本日山中山荘同人会新年会が経済倶楽部にて催されたるも欠席、湛一及和彦のみ出席。読売新聞原稿訂正、出来ず。

一月二十七日（月）

午前 8.48 電車。横浜にてツバメに乗り、池田に向ふ、母墓参⁽⁴³⁾夜本覚寺に泊、歓待を受く。

一月二十八日（火）

午前 10.30 本覚寺を辞し、小澤師と共に高田⁽⁴⁴⁾恵忍師訪。午後 5.49 鈴川発帰宅、午後 8.30⁽⁴⁵⁾

(38) 石橋の二男、和彦（1918–1944）。

(39) 石橋は 1920 年代末頃より、石原保秀の乾浴療法（石原式乾浴療法）を実践していた（石橋湛山「現代医術を超越せる治病健康法」、石原保秀『石原式乾浴療法』（乾浴療法普及会、1930 年、pp.17–18）。初出は「名士の推奨する卓効ある民間療法」（『主婦の友』1929 年 9 月号掲載）。

(40) 本翻刻に頻出する「湘南組合」の叙述は、石橋が関東大震災後、居住地鎌倉の復興事業として始めた湘南倶楽部の活動である。石橋は 1924–28 年、鎌倉町会議員を務めている。詳細は上田美和「石橋湛山と地方自治 実践と論理」（『石橋湛山研究』第 2 号、2019 年）を参照のこと。

(41) 市川房枝らの依頼により、1934 年 11 月に創設された婦人経済会は、石橋および東洋経済新報社の全面協力のもと、社内で定期開催された（『週刊東洋経済』1973 年 5 月 19 日号、pp.47–48）。

(42) 石橋の長女、歌子。1916 年生。

(43) 青龍山本覚寺（現・静岡県静岡市駿河区池田）。

(44) 静岡県須津村東光寺住職（『佛教年鑑 昭和 9 年版』佛教年鑑社、1933 年、p.165）。

(45) 現在の東海道本線吉原駅（1956 年改称）。

一月二十九日（水）

疲労朝寝し午前 9 時すぎ起床。午前 12.23 電車にて出社。編輯会に出席。

米国 Dr. Boody⁽⁴⁶⁾ に送る統計出来（朝日新聞生計費指数の外）鈴木氏に命じ発送せしむ。

午後 5 時三菱秋山氏来談。

本日夕刻ホルモン注射第一回を受く。

〔1 行空き〕

社工場内に池田氏（及神原氏）に対する反感ありとの事野沢より内報を受く、工場組織につき根本的に考慮を要すべし。

一月三十日（木）

午前 7 時起床。乾布摩擦。

午後 2 時頃まで貿易指数確認。

午後 3 時頃より読売新聞原稿修正夜 9 時すぎ終る。

一月三十一日（金）

午前 7 時起床。摩擦。9.53 電車にて出社。正午倶楽部午餐会、高山氏灸の話、終りに有志者と共に灸点を受く。

ホルモン第二回注射。高橋亀吉氏と夕食を共にし雑談。

〔1 行空き〕

今朝読売新聞に原稿発送。

小澤、高田両師に先般訪問の礼葉書発送。

二月一日（土）

午前 7 時起床 摩擦。8.48 電車にて出社。財政論冊子原稿校訂。正午倶楽部午餐会、新聞班長根本大佐の支那視察談。

夜灸点。

〔1 行空き〕

松田文相本日突如死去。

二月二日（日）

午前 8 時起床。摩擦。午前灸点。午後湛一と共に一茎九花蘭三鉢を植ゆ。

英文雑誌社説英文訂正。

財政論冊子原稿作製。

習字少しく。

二月三日（月）

午前 7 時起床。摩擦。午前 9.03 電車にて出社。

英文雑誌につき大石斎藤両氏と打合せ、例に依り大石氏より斎藤氏の態度につき苦情あり訓戒す。

財政論冊子原稿執筆。

正午自由通商協会総会に出席、吉野商工次官⁽⁴⁸⁾の講演を聞く。

中商小工業者組合に就ての談、貿易に対する

(46) Romaine Elizabeth Boody (Elizabeth Boody Schumpeter) (1898-1953)。アメリカの経済学者。主に東アジア経済を専門とした。1937 年にシュンペーター (Joseph Alois Schumpeter) と結婚。『The Industrialization of Japan and Manchukuo, 1930-1940: Population, Raw Materials, and Industry』(New York: Macmillan, 1940) を編集し刊行。夫シュンペーターの遺稿を編集し『History of Economic Analysis』(New York: Oxford University Press, 1954) (東畑精一・福岡正夫訳『経済分析の歴史』岩波書店、2005 年) を刊行。

(47) 高山峻「現代医学よりする灸法の批判並に其史的考察」『経済倶楽部講演』第 114 号、1936 年。

(48) 吉野信次 (1888-1971)、政治学者吉野作造の弟。商工相、満洲重工業開発副総裁などを歴任。

談 組合の作用は全く粗製濫造及無謀競〔争〕
防止の消極的効果に止り、積極的發展策に対
しては却つて弊害あり、茲に当局も苦悩を感
じつゝあることを言明す。

ホルモン第三回

夜宅にて灸点。

二月四日（火）

午前 7 時起床。摩擦。8.48 電車にて出社。英
文財政論訂正、午後も同様。

午前 11 時内山舜氏に導かれ木村漢法医訪、診
察を受け薬を貰ふ、漢法医先生甚だ若輩にて
心元なし。

午後勝間田氏来室 Oriental Economist 1 月
号の批評を聞く、統計欄の訂正を依頼、外に
米国に送付すべき英文訂正依頼。

午後俄に大雪且つ風強し。自動車なく、地下
鉄に赴きたるも乗客殺到して乗車困難。一旦
帰社して夕食後 7.23 分電車にて帰宅。

夕刻倶楽部常任委員会、幹事選改選、何れも
重任に決す。

本日帰宅おくれたる為め灸点休止。

二月五日（水）

午前 7 時起床。摩擦。9.03 の電車に乗らんと
せしも明〔昨〕⁽⁴⁹⁾夜の雪にて運転障碍ありて来
らず。9.23 電車にて出社。

英文 leading articles 財政論訂正、正午すぎ
大石氏に渡す。其他英文雑誌編輯打合せ。

夕刻ホルモン注射。帰宅後 Federal Reserve

Bulletin を読む。

朝宅にて灸点。

二月六日（木）

午前 6.30 起床。摩擦。習字少しく。

終日在宅。明日の経済倶楽部講演の為め、貿
易論起草。

午後 5 時 30 終る。

昼宅にて灸点。

二月七日（金）

午前 6.30 起床。摩擦。朝食後灸点。

午前 9.23 電車出社。社説総選挙と政党の政策
貧困執筆。⁽⁵⁰⁾正午倶楽部午餐会にて貿易に現れ
たる我国勢の発展講演。⁽⁵¹⁾

夕刻ホルモン注射。社説執筆夜 10 時まで。

二月八日（土）

午前 7 時前起床。摩擦。朝食後灸点。

午前中英文 Review of the Month 等校閲、大
石氏に速達にて返送。

午後 3 時 53 和彦を伴ひ山中に向ふ、スキーの
為め。籠坂よりバス下車、夜中雪中をスキー
にて倶楽部ハウスに到着。雪三尺以上

二月九日（日）

曇。午前高砂道路にてスキー調子悪し。湛一
到着。

午後ゴルフ場ゲレンデーに赴く、思ひの外盛
なり。

(49) 欄外に「昨」と表記あり。

(50) 『東洋経済新報』1936 年 2 月 15 日号「社説」(『全集』⑮, p. 123)。

(51) 「貿易に現れたる我国勢発展の趨勢と其前途」(『全集』⑮, p. 190)。

夜鎌倉宅より電話あり、杉野氏夫人逝去の旨

二月十日（月）

曇。午前 10 時馬ゾリにてゲレンデーに赴く、雪固く練習困難。午後山麓会社事務所より電話あり。公魚釣に赴く、あまり釣れず。午後再び馬ゾリにてゴルフ場付近県道に出てバスにて御殿場。7 時 7 分列車にて帰宅。

二月十一日（火）

午前 7 時前起床。摩擦。午前 8.30 杉野氏夫人告別式に赴く。
在宅。清沢氏執筆社説訂正。財政冊子原稿作製等。夜まで。
午後灸点。

二月十二日（水）

午前 6.30 起床 摩擦。朝食後灸点。
午前 10.20 電車にて出社。正午村山医師に就き健康診断異状無し。
午後 2 時より編集会。
宮川三郎氏⁽⁵²⁾より大阪の状況聴取、名古屋開拓の件も協議
夕刻ホルモン注射。

二月十三日（木）

午前 6.30 起床。摩擦。朝食後灸点。理髪。
午前 10.23 電車にて出社。途中大塚尚氏と湘南組合の件につき協議。

午後 1.30 歯科医学校⁽⁵³⁾杉山氏訪、今日より歯治療再開。

午後 2.30 より英文雑誌につき打合せ、大石、斎藤、山田、三宅、鈴木出席、毎月 5 日校了の予定に決す。

夜宅にて The Russian Financial System を読む。

二月十四日（金）

午前 7 時前起床 摩擦。朝食後灸点。午前中在宅疲労休養。
午後 1.30 歯科医学校。それより出社。雑用若干。
夕刻ホルモン注射。
Einzig, Exchange Clearing System 翻読。

二月十五日（土）

午前 7 時前起床。摩擦。朝食後灸点。午後 3 時まで中外商業の為め事業興起を妨げる日銀の金融操作執筆⁽⁵⁴⁾、直ちに速達にて発送。
夕刻より貿易に就ての講演速記修正開始〔6 行空き〕
発書——小山亮、古郡孝之、上田■弥〔カ〕、藤井弘雄。

二月十六日（日）

午前 7 時起床 摩擦。朝食後灸点。
終日在宅。貿易講演修正。
湘南倶楽部払込催告状本日組会員に発送せら

(52) 宮川三郎は東洋経済新報社社員（1933 年入社）。

(53) 「歯科医学校」とは東京歯科医専のこと（『全集』⑮，p.375）。

(54) 『中外商業新報』1936 年 2 月 17 日号「中外週評」（『全集』⑮，p.123）。なお、同目録は、掲載誌を『中外商業新聞』と記載しているが、『中外商業新報』の誤り。

れ、諸方より電話にて苦情来る。

夕刻永峰正樹氏来談。

二月十七日（月）

午前 7 時前起床。摩擦。朝食後灸点。

午前 9.20 電車出社。貿易講演修正。

午後 1.30 歯科。午後 6 時ホルモン。

夕食後帰宅。

〔1 行空き〕

本日日比谷公会堂にて岡田総理及高橋蔵相の
総選挙演説あり 白根書記官長⁽⁵⁵⁾開会及閉会の
辞、大臣の東京に於ける公開演説は珍しき事。

二月十八日（火）

7 時前起床。摩擦。朝食後灸点。

9.23 電車にて出社。貿易講演修正午後 1.30
終る。

午後 2 時歯科。3 時 20 分電車にて帰宅。

〔1 行空き〕

午後 5 時湘南組合の件につき落合義貞氏来談。

午後 7 時より大塚氏宅にて日能、大塚、予及
山中四名にて今後の湘南組合の方針につき協
議す。11 時すぎ帰宅。

二月十九日（水）

7 時すぎ起床。摩擦。朝食後灸点。

9.23 電車にて出社。午前中宅にて調物。

午前 11.23 電車にて出社。倶楽部にて大塚、
野口、馬場三氏と会談 湘南組合の件につき打
合せ。

午後 2 時歯科。帰社して編輯会に出席。

夕刻ホルモン注射。午後 6.203 電車にて帰宅。

二月二十日（木）

午前 7 時起床 摩擦。

午前 9 時安斉治三郎氏⁽⁵⁶⁾来宅、湘南倶楽部払込
の件につき談話、午後 2 時まで。

午後 2 時第一小学校にて衆議院議員選挙。そ
れより出京。

午後 3 時歯科医学校訪。

午後 5 時出社。社務につき山田神原両氏と
相談。

午後 6 時 23 電車にて帰宅。

二月二十一日（金）

午前 8 時前起床 摩擦。

午前 9.23 電車にて出社。一階理事室にて事務
打合せ。

大阪支局宮川氏より来書に対し返書、東洋経
済会創立の件。

正午倶楽部午餐会、新聞班松村少佐講演。

午後 2 時歯科医学校、杉山氏病氣にて不在 代
理医師診療。

午後 3 時 30。大杉潤作氏⁽⁵⁷⁾来談、午後 5.30 まで。
ホルモン第 10 回注射。

午後 6.23 電車にて帰宅。

夜 9 時すぎ入浴。今夕より入浴後も書齋に
入る。

(55) 白根竹介（1883-1957）。内務官僚、政治家。

(56) 鎌倉町会議員。

(57) 早稲田大学哲学科で石橋の同期、1907 年卒業（『湛山回想』岩波書店、1985 年、p.91）。

二月二十二日（土）

午前 8 時前起床。摩擦。

午前 9.53 電車にて出社。午前中社務。

午後 2 時歯科医学校。3.20 電車にて帰宅。

午後 7 時より大塚氏宅にて湘南組合役員会、参加者大塚、野口、山中及び予、夜 12 時すぎまで。

〔1 行空き〕

夕刻、畔田、小山亮、田川三氏に衆議院議員当選祝電を発す。⁽⁵⁸⁾

二月二十三日（日）

午前 8 時すぎ起床。摩擦。今晩来降雪。

午前 11 時加藤郁次氏訪、湘南組合の件。

午後湘南組合の為め組合員宛書面原稿作製。

英文雑誌 leading article 起草。

二月二十四日（月）

午前 7 時起床 摩擦。

午前 9.23 電車にて出社。電車中にて大塚氏と会見、湘南組合の件につき打合せ。

本夕より岸本氏に湘南組合整理手伝を依頼。組合員発書状社にて印刷。

国際協調主義英文誌論文起草終る。⁽⁵⁹⁾ 社説選挙結果評執筆。

正午倶楽部午餐会、根津知好氏講演。⁽⁶⁰⁾

夕刻ホルモン注射、第 11 回。

二月二十五日（火）

午前 7 時前起床。摩擦。8.48 電車にて出社。

選挙結果評社説起草終る。

午後書面等雑用若干。勝間田氏と英文雑誌統^{ママ}経欄英訳打合せ。

夕刻大塚氏と会談竹むらにて。

二月二十六日（水）

午前 7 時前起床 摩擦。雪降る。

宅にて書類等整理。

午前 10.30 頃社野沢より電話あり、今晩安藤大尉外数名の将校歩兵第三連隊の兵数中隊を率ひ、岡田首相、高橋蔵相、斎藤内府、渡辺教育総監 鈴木侍従長 牧野前内府等を襲撃 牧野内府は行衛不明 他は何れも即死す、外に朝日新聞等諸新聞社も襲撃、併し之には大なる故障なし、反軍は宮城警視庁其他諸官衙を占領すと。

午後出社す。状況混沌として不明也 夕刻兎に角帰宅。

二月二十七日（木）

午前 6.30 起床。摩擦。7.53 電車にて出社。事件後の経済界執筆、今土曜の雑誌に添付す。⁽⁶¹⁾

正午、安川雄三郎氏送別会にて貿易会館に赴きしも全氏は大阪より帰らず 志立氏等と中食雑談。

午後 3 時より新■会の為め事件と経済界の関

(58) 畔田明（長野 4 区）、小川亮（長野 2 区）、田川大吉郎（東京 3 区）は 1936 年 2 月の総選挙で当選した。石橋がこの選挙で応援した三者はいずれも中立候補であった。戦前期における石橋の支持政党についての考察は、上田『石橋湛山論』第 2 章「浮動有権者としての政党論」を参照のこと。

(59) “International Co-operation”, *O.E.*, Vol. III No. 3 (『全集』⑮, p. 124)。

(60) 根津知好は東洋経済新報社社員（1930 年入社）。

(61) 『東洋経済新報』1936 年 2 月 29 日号「付録」（『全集』⑮, p. 123）。

係講演、社四階にて

午後 5.30 より雨月荘にて畔田氏議員当選祝賀会に出席。

午後 9.30 帰宅。

二月二十八日（金）

午前 7 時前起床 摩擦。野沢より電話あり形勢不良と

午前 9.53 分列車にて出京。東京駅表口は自動車通行禁止。

丸ノ内^{ママ}一^{ママ}軒事務所ハ動揺閉鎖せられたるもの多し。

経済倶楽部に報報刻々入るも区々にして何れも信ずるに足らず。

午後 9.30 帰宅。

10 時頃ラヂオあり。去二十六日朝騒擾を起したる数百名の軍隊云々と発表す、反軍の慰撫不能にて遂に兵力鎮圧に決せるものと判断せらる。

二月二十九日（土）

午前 6.30 起床 摩擦。ラヂオにて愈よ兵力を以て反乱鎮定発表せらる。^{ママ}公通停止せられたる地区多く、横須賀線も横浜東京間不通、上京するを得ず。

午後 2 時湘南組合に赴き、全総会に出席、併し本日は出席人員規定に満たず唯だ懇談のみにて散会、終りて役員会開催午後 6 時すぎ帰宅。

〔1 行空き〕

本日午後反乱軍鎮定す。岡田首相奇蹟的に無事生存せる旨発表せらる。

三月一日（日）

午前 7.30 起床 摩擦。終日在宅。The Exchange Clearing System by Paul Einzig の Review 執筆、夜 9 時終る。

午後中込鐵一郎氏来。午前永峯〔峰〕正樹氏来。

〔1 行空き〕

本日反乱軍現役将校 20 名中 野中四郎一名は自害 他は刑務所に収容の旨発表せらる。現役将校の外 村中等過去に於て免官せられし将校三名も加はれり。

三月二日（月）

午前 7 時前起床 摩擦。8.48 電車にて出社。午前中書面等認め。

正午倶楽部にて反乱鎮定祝賀午餐会、常連の集り。

午後 2 時より編輯会（臨時）今後の方針を定む。

〔1 行空き〕

正午前大杉潤作氏来医師の件。

横浜高商校長に書面発。

夕刻ホルモン注射、12 回。

三月三日（火）

午前 7 時前起床 摩擦。8.48 電車にて出社。社説⁽⁶²⁾今後の財政経済政策執筆、午後 2 時頃終る。

夕刻、帰宅。

三月四日（水）

午前 7 時前起床 摩擦。午前 8.23 電車にて出社。八大将の現職及現役辞任表明につき社説執筆、正午終る、併し戒厳下に於ける事情に

（62）『東洋経済新報』1936 年 3 月 7 日号「社説」（『全集』⑮，p.123）。

考へ掲載は見合はす。

午後 Review of the Month 執筆 半分すぎ。

〔1 行空き〕

今日午後近衛公に大命降下 併し拝辞と伝へ
らる。

〔1 行空き〕

夕刻ホルモン注射, 13 回。

三月五日 (木)

午前 7 時前起床 摩擦。午前 8.48 電車にて出社
Review of the Month 執筆終る。

本日広田外相に組閣大命下る。

午後 6 時すぎ成城に大杉潤作氏訪問 馬場医学
士の診察を受け灸点及漢薬を受く, 夕食の饗
応を受け 10 時すぎ辞去。

午後 3 時大塚尚氏来社, 湘南組合より組合に
発する書状につき打合せ。

三月六日 (金)

午前 7 時前起床 摩擦。朝食後灸点。

理髪後 10.53 電車にて出社。

Allen 教授より依頼の調査につき考案。⁽⁶³⁾

本日広田外相閣員人選の爲め陸軍の意向と反
し組閣難に陥る。

湘南組合の爲め書状印刷 (大塚氏起稿 予修正)

午後 8.53 分電車にて帰宅。

〔1 行空き〕

夕刻ホルモン注射, 14 回。

三月七日 (土)

午前 7 時前起床 摩擦 朝食後灸点。9.53 電車
にて出社。

Allen 教授より依頼の調査につき考案。

午後 3 時より横浜キリスト教女子青年会の催
にて歌舞伎座見物, 忠臣蔵。

〔1 行空き〕

本日より馬場医学士の漢法薬を服用。

三月八日 (日)

正午 12 時まで臥床。摩擦。

午後 2 時より湘南組合総会, 出席者十数名, 議
案を議決し, 懇談, 組合員有志会開催に決す。
夜灸点。

三月九日 (月)

午前 6 時 30 起床 摩擦。朝食後清水龍山氏の
日蓮上人に就ての講演ラヂオを聴く。8.48 電
車にて出社。雑用。

午後 7 時より田中齊氏商店にて今後の経済界
の推移につき講演 午後 9.23 電車にて帰宅。

夕刻ホルモン注射, 15 回。

本日広田内閣成立す。

(63) George Cyril Allen (1900–1982)。イギリスの経済学者。1922 年から 25 年まで名古屋高等商業学
校の教師を務める。日本滞在中に日本経済に対する関心を持つ。後年に *Japan: The Hungry Guest*
(London: G. Allen & Unwin, 1938) と *Japanese Industry: Its Recent Development and Present
Condition* (New York: Institute of Pacific Relations, 1940) を公刊。後者では本文中に引用する統
計の出典として OE 誌が挙げられている。アレンは 1925 年に帰国後, 1936 年に再度日本を訪れてい
る。石橋によると「ハーヴァード大学国際研究所の依頼を受けて来朝し, 数ヶ月滞在し, 我が国の近
年の産業の発達を調査して行った」という (『全集』⑫, p. 514)。来日の前後に何らかの形で東洋経済
新報社に対して調査協力の依頼を連絡したと考えられる。

〔5 行空き〕

本日より永峰正樹を助手として入社せしむ。
Prof. Allen 依頼の調査に着手せしむ。

三月十日（火）

午前 7 時前起床 摩擦。8.48 電車にて出社。
社説期待せられる広田内閣の前途執筆⁽⁶⁴⁾、午後
5 時終り。

午後 5.23 電車にて帰宅。湘南組合役員会の筈
なりしも出席者少数の為め延期。

夕食後灸点。

〔1 行空き〕

本日株式市場開く（26 日以来休会）暴落。志
津及田中氏資金にて森永製菓 30 株購入 46 円
替。

夜 11 年度所得申告書作製、明朝郵送。

三月十一日（水）

午前 6.30 起床 摩擦。9.03 電車にて出社。車中
加藤郁次氏と会談、湘南組合有志会の件依頼。

午前中著書発行につき原稿整理。

午後 2 時より編輯会。

夕刻ホルモン注射、16 回。夕食後灸点。

〔1 行空き〕

本日和彦鼻治療の為専売病院に入院。

三月十二日（木）

午前 8.30 起床 摩擦。9.53 電車にて出社。中途
にて武藤山治氏遺作展を鐘紡サービスステー
ションに見る⁽⁶⁵⁾。

社にて著書原稿整理 夜 9 時まで。

夕刻ホルモン正午社座談会新内閣評。

ウタ子友人結婚式に招かる。9.23 電車にて同
道帰宅。

三月十三日（金）

午前 7.30 起床 摩擦。午前 9.30 湘南組合に県
農務課地方農林主事吉田一二氏来 大塚組合長
と共に会見、組合更生計画につき打合せ、ホ
テルにて昼食。ホテルにて山田電気社長と偶
然会見

午後 2.53 電車にて出社。参謀本部岡田主計少
佐⁽⁶⁶⁾来談上海行人物の件 其他雑用。

夕刻ホルモン注射、17 回。午後 7.23 電車に
て帰宅。

夕食後灸点

三月十四日（土）

午前 7.30 起床 摩擦。朝食後杉野氏を見舞ふ。

午後著書原稿整理我国金利の〔見〕通現^{ママ}〔將〕
来、夕刻まで。

夜 9.30 大阪支局原田君来、上海行につき相談、
全氏一泊。⁽⁶⁷⁾

〔64〕『東洋経済新報』1936 年 3 月 14 日号「社説」（『全集』⑮，p.123）。

〔65〕武藤山治（1867-1934）は鐘紡社長を務めた慶應義塾出身の実業家、政治家。福澤諭吉により創刊された『時事新報』の経営権を 1932 年に取得するが 1934 年 3 月に暗殺された。石橋はこの時期しばしば『時事新報』に寄稿している。

〔66〕岡田西次（1897-1994）。陸軍軍人。当時、陸軍主計として上海大使館陸軍武官室に勤務。

〔67〕原田運治（1911-2017）。原田は 1934 年に東洋経済新報社に入社し、翌年 1 月に関西支局に赴任（原田運治「宮川三郎氏の追憶」『自由思想』第 34 号，1985 年 2 月，p.48）。

夜日本金融史執筆準備。⁽⁶⁸⁾

夕食後灸点。

三月十五日（日）

午前 7 時前起床。摩擦。原田君朝食後上京。

午前中端書 7 枚認め。朝食前習字少しく。

午後 1 時より北鎌倉にて武藤山治氏三周忌追悼会出席。

尾崎行雄氏等出席。

夕食後灸点。

三月十六日（月）

午前 8 時前起床 摩擦。9.53 電車にて出社。

正午大塚山中両氏来共に食事 湘南組合の件につき打合せ。

雑用多し。

夕刻ホルモン注射第 18 回。

午後 5.30 より商工会議所にて中商工業問題座談会。9.20 東京発にて帰宅。

三月十七日（火）

午前 7 時前起床。摩擦。8.48 鎌倉発出社
社説内閣諸公は頭脳を冷静にし先づ産業力を調査せよ執筆。⁽⁶⁹⁾

夕刻倶楽部常任委員会。午後 7.23 電車にて帰宅。

夕食後灸点。

三月十八日（水）

午前 7 時前起床 摩擦。午前 9.03 電車にて出社。

時事新報の爲め広田内閣の政策につき執筆始め。⁽⁷⁰⁾

午後 4〔カ〕時より編輯会。

夕刻ホルモン第 19 回注射。

午後 8 時 30 大塚氏宅に赴く、湘南組合役員会、夜 12 時前まで

三月十九日（木）

午前 8 時前起床 摩擦。時事新報の原稿執筆在宅。

200 字詰 13 枚午後 3 時 12 分速達にて発。
続けて夜まで時事新報原稿執筆。⁽⁷¹⁾

午後灸点。

三月二十日（金）

午前 7 時前起床 摩擦。午前 9.03 電車にて出社京。

成城馬場医院訪診察を受く、灸点 8 個所増加。

大杉氏宅に挨拶 午後すぎ出社。

時事新報原稿の続執筆午後郵送。

夕刻ホルモン第 20 回注射。

夜女子大英文科主催劇観覧。⁽⁷²⁾

〔1 行空き〕

本日彦退院。

(68) この年 9 月に改造社より『日本金融史』（『現代金融経済全集』第 12 巻）刊行。

(69) 「内閣諸公は頭脳を冷静にして先づ産業力の総合的調査を行へ」『東洋経済新報』1936 年 3 月 21 日号「社説」（『全集』⑮，p.124）。

(70) 「果してどれだけの革新を期待し得るか」『時事新報』1936 年 3 月 21 日付「新財經策の批判」（『全集』⑮，p.124）。これ以降，11 月までの毎月，同紙への寄稿が続く。

(71) 「現実に即した政策立案は容易でない」『時事新報』1936 年 3 月 24 日付「新財經策の批判」（『全集』⑮，p.124）。

三月二十一日（土）

午前 8 時前起床 摩擦。中外商業原稿（我が国の自然金利、公債利率三分は必然）宅にて執筆⁽⁷³⁾ 午後 3 時 12 分の速達にて発送。続て時事新報の原稿継続執筆⁽⁷⁴⁾、夜 12 時まで。
夕食後灸点。

三月二十二日（日）

午前 8 時前起床 朝食後庭に出づ。午前 10.42 速達にて時事に原稿第 3 回目発送。午前中新聞等を見て休息。
午後明日の講演準備。灸点。
夜大杉潤作氏来談 10 時すぎまで

三月二十三日（月）

午前 7 時前起床 摩擦。講演準備を続く。午前 9.53 電車にて出社。
正午倶楽部午餐会 時局後の経済界に就て講演⁽⁷⁵⁾。
山崎靖純氏⁽⁷⁶⁾を事件関係参考人として憲兵隊に召喚受けしも前週金曜帰宅せし由にて本日来社。

〔1 行空き〕

夕食後灸点

〔1 行空き〕

本日市制問題協議会 町役場にありしも欠席。
夜経済攻究会ありしも欠席。

三月二十四日（火）

午前 8 時前起床 摩擦。9.53 電車にて出社。
正午川越大蔵次官を招き雑音会⁽⁷⁷⁾開催、日銀の公債売却政策等につき暗示を与ふ。
社説低金利政策を破壊する日銀の公債売却第一主義執筆⁽⁷⁸⁾。
夜帰宅。時事新報原稿第四回執筆⁽⁷⁹⁾、11.30 まで。

三月二十五日（水）

午前 7 時前起床 摩擦。8.48 電車にて横浜 それより 9.27 ツバメにて名古屋に向ふ。午後 2 時すぎ着。宮川氏等⁽⁸⁰⁾の出向を受け、万平ホテルにて休息 午後 5 時すぎより御納屋にて安藤俊三商店主催の会合にて講演⁽⁸¹⁾。
午後 11.45 名古屋発帰宅。

(72) 当時、長女歌子が日本女子大学英文科に在学中だった（『全集』⑮，p. 375）。

(73) 『中外商業新報』1936 年 3 月 23 日号「中外週評」（『全集』⑮，p. 124）。

(74) 「現機構の急変革——考慮の余地あり」『時事新報』1936 年 3 月 25 日付「新財經策の批判」（『全集』⑮，p. 124）。

(75) 演題「最近の時局と我財政及経済の前途」（『全集』⑮，p. 190）。

(76) 山崎靖純（1894–1966）。時事新報や読売新聞の経済記者を経て山崎経済研究所所長。慶應義塾大学部理財科出身。金解禁論争では石橋、高橋亀吉、小汀利得と共に新平価による金解禁を主張し「新平価四人組」と呼ばれた。

(77) 新平価解禁を唱える経済評論家の集まり。主なメンバーは、石橋、小汀利得、高橋亀吉ら。当時、大蔵省官僚だった賀屋興宣もつながりがあった（賀屋興宣『戦前・戦後八十年』株式会社浪漫，1972 年，p. 54）。

(78) 『東洋経済新報』1936 年 3 月 28 日号「社説」（『全集』⑮，p. 124）。

(79) 「急激な増税は馬場財政下で不可能」『時事新報』1936 年 3 月 26 日付「新財經策の批判」（『全集』⑮，p. 124）。

(80) 当時、関西支局に在籍していた宮川三郎か。

三月二十六日（木）

午前 6.30 前帰宅。朝食後入浴等休息 書面認め。

午後 1.53 電車にて横浜。県議事堂にて商工協会の為め講演⁽⁸²⁾。5.06 横浜発電車にて帰宅。

夜、著書原稿整理少しく。灸点。

〔1 行空き〕

商大（東京）学長三浦博士紀元節の際勅語を誤読したりとの事にて文部省に進退伺提出せりとの報あり⁽⁸⁶⁾。

小川郷太郎氏商工大臣に任せらる。

原田氏参謀本部に本日より就職⁽⁸⁷⁾

三月二十七日（金）

午前 8 時起床。朝食後灸点。11.23 電車にて出社。正午倶楽部午餐会，鹿島博士外交談⁽⁸³⁾。

午後 2 時すぎ清沢氏と社説打合等。午後 6.23 電車にて帰宅。

〔1 行空き〕

夜馬場蔵相に書面認め面会申込。

三月二十九日（日）

午前 7 時前起床。朝食後灸点。

午前中庭に出で掃除等。午前松崎伊三郎氏来談。

午後書簡認め等。午後土屋秋雄氏予病氣見舞にとて立寄らる。⁽⁸⁸⁾

三月二十八日（土）

午前 7 時起床。朝食後灸点。9.53 電車にて出社。

午後の婦人経済会の為め講演準備。午後 2 時より婦人講演会。午後 5 時 30 より倶楽部茶話会，内務省保安課長相川勝六氏より大本教⁽⁸⁴⁾

に就き聴取，夜 9 時すぎ終る。

三月三十日（月）

午前 7 時起床。宅にて社説執筆（金利革命の実相を把握せよ⁽⁸⁹⁾）夕刻終り。

夕食後灸点。

夜 8 時より大塚氏宅にて湘南組合役員会，但し日能氏欠席。

(81) 演題「私は何故財界の前途を楽観するのか」（『全集』⑮，p.190）。

(82) 演題「我国経済の現状と将来」（『全集』⑮，p.190）。

(83) 鹿島守之助「ロカルノ条約廃棄と欧州の安全保障」（『経済倶楽部 50 年（上）』社団法人経済倶楽部，1981 年，p.162）。

(84) 相川勝六（1891-1973）。内務官僚。第 2 次大本教弾圧を指導した。

(85) 三浦新七（1877-1947）。経済史学者。東京高等商業学校教授，両羽銀行頭取を経て当時は東京商科大学学長。

(86) 前年 10 月の御真影奉戴式で三浦は，教育勅語の「古今ニ通シテ」を「コキン」，「一旦緩急アラバ」を「アレバ」と誤読し，また，2 月の紀元節でも勅語の誤読を繰り返したという（『新聞集成昭和史の証言 第 10 巻』本邦書籍，1984 年，p.148）。

(87) 原田運治（注 67）は，上海大使館陸軍武官室の岡田西次（陸軍主計）の下で「経済調査のパートナー」（岡田西次『日中戦争裏方記』東洋経済新報社，1974 年，p.57）として活動したとみられる。

(88) 『石橋湛山日記』（上巻，みすず書房）1946 年 3 月 14 日の条。

(89) 『東洋経済新報』1936 年 4 月 4 日号「社説」（『全集』⑮，p.124）。

三月三十一日（火）

午前 7 時前起床。午前 8.43 電車にて出社。

Oriental Economist leading article 修正。其他校正等。

夕刻田中孝子⁽⁹⁰⁾氏来 金 100 円渡す。

午後 6.23 電車にて帰宅。

夜時事新報原稿執筆⁽⁹¹⁾，11.30 まで

〔1 行空き〕

夕食後灸点。

付記：本研究は JSPS 科研費 JP20K01452 の助成を受けたものである。

(90) 石橋の恩師である哲学者田中王堂（1867–1932）の妻，孝子（1886–1966）。社会学者で，1933 年から東京市結婚相談所初代所長を務めた。

(91) 「日本銀行の曠職」『時事新報』1936 年 4 月 3 日付「財界時評」（『全集』⑮，p. 124）。